

竹内 大途

Haruto Takeuchi

テーラー

人生を変える トラッド・スーツ

今回の美の匠は、
正統派ブリティッシュスタイルの素晴らしさを
表現してみせる若きテーラー、竹内大途。
東京・神楽坂のアトリエ・ベルンを訪ね、
彼の手がける仕事と、テーラーに至るまでの話を訊いた。



Text by 編集部 野間
Photo by 馬場道浩

2年後に似合う服を

絵画から抜け出て来たような人である。竹内大途、29歳。身に着けたフォーマルスーツは、胸のラインの美しさが格別だ。

自ら「洋装士」と名乗る。神楽坂にアトリエ・ベルンというプライベート・サロンを構え、顧客ひとりひとりにオーダーメイド・スーツを作るのが彼の仕事である。

オーダー服はビスポークともいい、その言葉は「be spoken」に由来する。顧客ひとりひとりとお話をし、作るという意味だ。

「僕にお願いしてもらえたら、僕なりの考えで感動してもらえ、あるのを作りたいんです。根本にあるのは、何を着るかではなくて、何をするか、です」

スーツであれば、どういうシーンで着るのか。ビジネスかパーティか。座り仕事か歩き仕事か。どういう時に一番美しい状態でいたいのか。

ひとりひとりの身体に合わせて、美しく見せる設計をすることがもつとも大切であると彼は言う。採寸は40カ所以上。身体の流れは目で見る。身体にぴったりと合うスーツを作ることはさほど難しい仕事ではない。大切なのは、その人の体型を最大限に活かすことだ。例えば、肩幅が狭く顔が大きい方の場合は、実際の寸法

よりも肩幅を出し、ラベル（襟巾）を広く作る。そうすることで、その人の短所になり得るポイントを活かすことができる。身の流れに沿うラインが色気を醸し出し、

着ている時とそうでない時とは、見違えるようなスーツを作る。竹内がただのテーラーではないと思わせるのは、デザイナー、スタイリストの役割をも担い、その人のスタイルを全身にわたってクリエイトする点にある。

「意識しているのは、2年後に似合う服です。いまは少し気恥ずかしさを覚えるくらいの方が、ちょうどいいと思います。お客さまが衣服と共に人生を育んでいくのが理想だからです」

なかには、自分のこだわりを強く持たれている方もいらつしやいます。そういう方とは熱くディスカッションします。その方のこだわりは本当に信念も持ったこだわりなのか、または雑誌を見た人から聞いたか、または知識なのか。その思想と、私の持っているアイデアと、どちらがお客さまにとって最高の提案になるかを常に練り引いて考えています」

その人自身の、いまを超えるスタイルを創り上げるために、竹内は顧客の顔を思い浮かべながら、生地や小物を年に1、2回、海外から買いつけてくる。スーツにとどまらず、タイ、靴、帽子など、

全身にわたって、まるで演出家のような働きをするのである。

自分をカッコよく、というループから抜け出す

竹内が服飾を職業とするようになった発端は、コンプレックスであった。

「運動もだめ、学業もバツとせず、天然バーマでメガネで地黒で、という取り柄のない少年でした。面白いことを言うくらいしか道はないだろうと思ひ頑張っていました。が、中学生になり、周りがファッションに興味を持つようになったことに気づいたんです。その頃の流行りはストリートファッション。ある時、自分がこだわったTシャツを着ていたら、背後から『あのTシャツ着ている、カッコいい』って言う女の子の音が聞こえたんです。その瞬間が、始まりですね笑」

女性にモテたい衝動から始まったファッションであったが、こだわると止まらない性格ゆえ、マニアックな方向へ向かい、気がつけば逆にモテない道を走っていたという。

「周りから気持ち悪いと言われる、それが俺なんだとマニアックを貫き続けていましたね。古着、パンク、モード……あらゆる様式を一周も二周もしたところで、トラディショナルに行き着いたん

ですよ」

地元青森から上京し、スタイリストの専門学校を経て、カジュアル系のスタイリストのアシスタントを2年間経験した後、トラッドの師に出会った。

「多くのファッションは自分にベクトルが向いていて、俺がカッコいいだろう、という世界。それは、時が来れば必ず古くなる。そこに疲れ、飽きたんです。初めてトラディショナルの世界に足を踏み入れた時、静かだけど個性的で、街を引き立てていると感じました。トラディショナルスタイルをかつこよく着こなしている人は、後光が差しているようにさえ見えます」

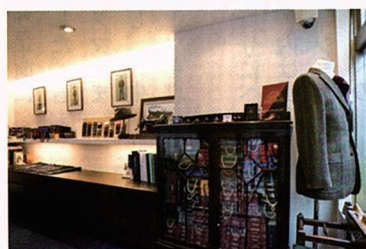
現代のアメリカンカジュアルの始まりであるリーバイスのファイブ・ポケットジーンズが生まれたのが1870年代です。ロックやモード、アウトドアスタイルなど、現代のファッションシーンの中心

であるスタイルも、歴史を紐解けば長くて100数十年です。しかし、トラディショナルは、階級社会ができて以来、姿かたちはゆつくりと変わりましたが、今日まで続いています。流行が巡り巡っても、スタイルを持ち続ける。多くの人が流行に振り回されているなか、一点の曇りのない台風の目にいるような、平穏な気持ちになります。この世界で生き続けることができれば、スピードの速い現代社会に流されることなく、信念を貫きすることができると思いました」

仕立ての良いスーツはビジネスで成果を上げる

竹内がトラディショナルに目覚めた、あるエピソードがある。21歳の頃のことである。

「当時、スタイリストの道だけでは将来の不安を感じ、いろいろなビジネスの勉強をしていました」



神楽坂を上り切ったあたりを右に折れ小道に入ると、「BERUN」がひっそりと佇んでいる。
BERUN (ベルン)
東京都新宿区神楽坂6-8-23
TEL 03-3235-2225
haruto@berun.jp
http://berun.jp/



その時、「誰かと会って話す時は、私服ではなくスーツを着るべきだ」と、目上の方から言われた言葉を信じることにしたのです。当時の私はスーツが大嫌いで、結婚式にも葬式にもデニムを履いていくと公言していたへそ曲がりでした。会社に向かう黒ずくめのサラリーマンの行進がマイナスイメージに感じていたのです。

ある日、社員数百人を抱える会社の社長と面会する機会を得、一着だけ持っていた安物のスーツとぼろぼろの合皮の靴を身に着けて、会いに行きました。約15分、自分の想いを伝え終わった後、その方は口を開きました。「私は毎日、何十人何百人の人と会って、短い時間にその人を判断する必要があるが、必ず3つのものを見ることにしている。ひとつ目はその人の目。その人が仕事に真剣に取り組んでいるかは目を見れば分かる。ふたつ目は服装。スーツは自分をより良く見せるという力もあるが、その他に、人と会う時に汚い格好をしていたら相手に失礼だから、しっかりとしたスーツを着ようという相手への配慮が表れる。スーツが適当な人は

他人への配慮も足りないし、外見がどれだけ大切なのかも分かっていない。最後は靴。足先の靴まで綺麗に履いている人は視野が広く、自分だけでなく周りもしっかりと見られる人だ。残念だが君は全て不合格だ。私は心底悔しくなり、その足で百貨店に行き、スーツ、ネクタイ、シャツ、靴、靴ベルト一式を揃えました。リボ払いで25万円。スタイリストのアシスタントの月収は3万円程度でしたので、本当に辛かったですが、人生を変えてやるという思いがありました。

一カ月後、再びその社長に会って欲しいと、ダメ元で連絡をしました。すると、10分なら時間を作れると言います。作ったスーツを着た姿を見てもらいに行きました。会った瞬間ハグをされ、「この行動は絶対に間違いじゃない。事実お前は一カ月前より目が変わった。これから誰かに会う時はこの服を着て行って、周りの目が変わるのを肌で感じるんだ」と言われました。

その日から、会う人会う人の、私を見る目が変わりました。褒めてくれるようになり、あらゆる

ことが好転しました。それだけでなく、私の目に入る街の景色も変わりました。日本では、スーツを着ている格好いい人をなかなか見かけないのです。なぜ、こんなにも自分をいちはん表現する大切なものなのに、ないがしろにされているのだろうか。そんな思いが高まって、人生を変える力を持つスーツを作ろう、フォーマルの道で独立しよう、と決心するに至りました。

その後、23歳で渡英。革新的テラーとして知られるティモシー・エベレストに師事する。英国で過ごした間は毎日、伝統的なブリティッシュスタイルで街を歩いた。すれ違いうイギリス人達は、美意識が高い人が多く、「君はカッコいいね」と声をかけてくれたという。

英国は階級社会であり、トラッドを着る人は限られている。それに比べ、日本では誰もがトラッドを楽しむことができる。そんな日本の良さも発見した。

帰国し、正統派ブリティッシュスタイルのコーディネートサロン「アトリエ・ベルン」を24歳で立ち上げた。赤坂見附のマンションの

一室で3年ほど運営し、2年前に神楽坂の路面店に移転した。若年層から年配のビジネスマンまで、竹内の世界に共感し、人生を変えるビスポーク・スーツを求めてやって来る。

流行のファッションは自分にベクトルが向いている、と竹内は言った。それに対しトラディショナルスタイルの根底には、相手への配慮があり、世界へベクトルが向いている。社会参加の意志表明といってもいい。静かに、堂々と、この世界で私は生きていきます、と。筆者は男性ではないので三揃えを作るわけにはいかないが、仕

立ての良いスーツを静かに着ている男性の姿に思いを巡らせ、うっとりとしている状況だ。ぜひ、パリッとした殿方が日本に増えて欲しいと願うばかりだ。



イギリス留学中の竹内大途

トラディショナルを着れば平穏な気持ちになる 街を歩けば後光が差しているかのようになり美しい



スーツ



ジャケット



コート



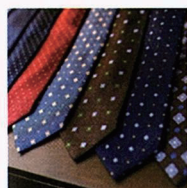
シャツ



キャスケット



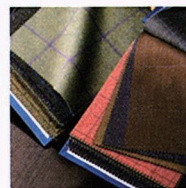
シューズ



ネクタイ



カフス



生地見本

